

高原町立小・中学校耐震診断結果及び補強計画

耐震診断実施年度 : 平成18年度に各学校の対象建物全棟を実施。高原中学校は全棟地震に対して倒壊または崩壊する危険性が低い建物である。

対象建物 : 昭和56年以前の建物で非木造の2階建てまたは非木造の延床面積200㎡超の建物。(高原中学校には対象建物がない)

診断結果 : 建築物の耐震改修の促進に関する法律における技術的指針IS値により次のように判断される。

$I_s < 0.3$	地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高い
$0.3 \leq I_s < 0.6$	地震に対して倒壊または崩壊する危険性がある
$0.6 \leq I_s$	地震に対して倒壊または崩壊する危険性が低い

IS値とは、建物の強度、建物形状、経年劣化の要因から決まる建物の耐震性能を表す指標です。

耐震補強の方法 : 必要に応じて教室と教室を隔てる間仕切り壁(コンクリートブロック壁)を撤去するなどし、新たに鋼材のブレースを設けて補強する方法。

耐震補強の時期 : 平成21年度に耐震不足の校舎を全棟補強することになっている。

補強後のIS値 : 地震に対して倒壊または崩壊する危険性が低いとされる0.6を上回る0.7以上を全棟で確保する。

学校名	棟番号	種別	全棟数		建築年度	構造	階数	耐震診断結果		補強年度及び方法	補強後のIS値	備考	
			棟数	面積				IS	補強の要否				
高原小学校	011	管理棟	1	859㎡	S49	RC	2	0.73	×	不要	-		
	002	中校舎棟	1	954㎡	S37	S	2	0.07		平成21年度鋼材によるブレース補強	0.92		
	003	南校舎棟	1	944㎡	S44	S	2	0.04			0.84		
広原小学校	001	管理・普通教室棟	1	1,101㎡	S45	S	2	0.01		高原小に同じ	0.86	001=777㎡ 009=324㎡	001と009は1棟として診断した
	009	特別教室棟			S49	S	2						
狭野小学校	014	管理棟	1	384㎡	S47	S	1	0.22		高原小に同じ	0.85		
	003	普通教室棟	1	729㎡	S42	S	2	0.10			0.86	003=567㎡ 016=162㎡	003と016は1棟として診断した
	016	普通教室棟			S47	S	2						
後川内小学校	012	管理棟	1	544㎡	H49	RC	2	0.71	×	不要	-		
	002	普通教室棟	1	548㎡	S44	S	2	0.08		高原小に同じ	0.93		
後川内中学校	001-1	管理・普通教室棟	1	850㎡	S43	S	2	0.11		高原小に同じ	0.81		
	007	屋内体育館	1	629㎡	S53	S	1	0.90	×	不要	-		

棟数・面積は、増築された建物でEXP.Jで接続されていないものは建設年度が違っても1棟とみなす。

構造のRCは鉄筋コンクリート造、Sは鉄骨造を示す。